幼稚園・保育所等における保護者への情報発信方法の検討
―園だよりを中心にして―

杉江　栄子*　古橋　さつ子**
大橋　琴美***　新美　洋祐***　齋藤　美幸***
新井美保子****

Ⅰ．目的

保育実践上、保護者及び家庭との連携は欠かせない。保育の質の向上を図る上でも、例えば幼稚園教育要領には「教育課程の編成についての基本的な方針が家庭や地域とも共有されるように努めるものとする」（第１章総則 第３）と記載され、また保育所保育指針でも「子どもの生活の連続性を踏まえ、家庭及び地域社会と連携して保育が展開されるよう配慮すること」（第２章保育の内容　４（3））と記載されている。このように、家庭や地域と連携して教育・保育を展開していくことは、子どもの生活や成長・発達を保障する基盤であると言えよう。

では、実際にはどのような連携をしているだろうか。また、幼稚園や保育所等で展開される保育について保護者にどのように伝え、保護者からはどのように理解されているだろうか。保育の実践内容やそのねらいについて保護者に伝えることは、「保育の可視化」や信頼関係の構築にもつながると考えられ、その提示方法の工夫が求められるところである。また、伝える内容にも保育者の力量が試されるところである。

そこで本研究では、保護者と連携・協力して保育を実施していくために、日頃の保育に関わる情報のより良い発信方法とその内容を明らかにする目的で、今回は園だよりに着目して検討していく。

Ⅱ．研究方法

園だよりは、基本的に毎月園から保護者に配布されるため、保護者と園との連携上重要な役割を担うと考えられるが、園だよりに関する先行研究はほとんど見当たらない。その中で大豆生田[1) 2)]は、園での子どもの遊びや活動、保育者の思いなどは保護者から見えにくく、保護者の誤解や無関心な態度を招く場合もあることを指摘している。そして、「おたより」において子どもの魅力的な姿や育ちを具体的に伝えることの重要性を述べている。クラスだよりと園だよりは役割も異なると考えられるが、園だよりにおいても園の魅力や園長初め保育者らの思いを伝えていくことは、作成上欠かせない視点であろう。

そこで、本研究では、園だよりの実態把握（調査１）、作成者へのインタビュー（調査２）、保護者対象アンケート調査（調査３）を実施し、園だよりの現状と情報発信上の課題を探る。

Ⅲ．調査１（園だよりの収集）

１．調査概要

Ａ市５園・Ｂ市４園・Ｃ市１園・Ｄ市１園・Ｅ市１園の公立保育所（６園）・公立幼稚園（５園）・公立こども園（１園）の計５市 12 園を対象に、平成 30 年度の４月と６月の園だよりを収集し、発行紙面（A3 用紙で発行している園もあったため、A4 用紙片面を１面として換算する）、主な掲載内容（①冒頭文、②目標・ねらい、③行事予定と翌月の予定、④子どもの姿や育ち・保育者の思い、⑤お知らせ・お願いなどの連絡事項）の分類と分析をした。倫理的配慮として、収集目的を個別に説明し協力を得られた園より提供いただいた。

＊　高浜南部幼稚園
＊＊　保育の実践と研究・安城の会
＊＊＊　安城市役所
＊＊＊＊　愛知教育大学幼児教育講座

２．結果・考察

(1) 発行紙面

１月当たりの紙面頁数は、４月では、保育所は２面（A4 両面）から４面であり平均 2.5 面、幼稚園・こども園では２面から７面あり平均 4.4 面だった。幼稚園･こども園より保育所の方が約２面少ない。６月についても、保育所は２面（A4 両面）から４面と変化はなかったが、平均は 2.3 面と若干減少していた。幼稚園・こども園も、２面から５面と減少し平均も 3.0 面と 1.4 面減少していた。これにより発行月の違いでは、４月の方が６月より紙面を多く使っていることが明らかになった。これは、４月は異動職員紹介（顔写真付きの場合もあり）、担任、担当、職種紹介、保育室（組、早朝、夕方保育）配置図などで、それぞれ A4 の１面を割いている園もあり、年度初めならではの特徴的項目があったことが要因となっていると考えられる。

保育所・幼稚園・こども園の違いは、幼稚園の方が４月・６月ともに平均紙面数が多いことがわかり、保育所の方が幼稚園・こども園より平均紙面が少ない結果となった。今回収集した保育所の中には、園だよりは、A4 で２面（両面）までと市で統一している市もあり、そのことが保育所の総紙面が少ない一因になっていると考えられる。

(2) 掲載内容

①冒頭文

４月は、保育所・幼稚園・こども園ともに新入・進級のお祝いの言葉と、短文で４月の子どもへの保育者の具体的な関わりや遊び、生活などを簡潔に記載していた。６月は、主に生活や遊びについての具体的な子どもの姿や、泥んこ開始についてなど梅雨の季節に応じた園の取り組みが記載されていた。中には、４月、６月ともに冒頭文を掲載していない園だより（１園）、４月はあったが６月はない園（２園）があった。また、大きく見出しを付けてその月に保護者に伝えたい子どもへの願いを子どもの姿を通して記事にして冒頭文にしている園だより（１園）もあった。

②目標・ねらい

４月について保育所では、保育理念と園目標（１園）、保育理念（１園）、年間保育目標と園が大切にしているところ（１園）、４月の年齢別ねらい（１園）を掲載している一方、他の２園では掲載がなかった。幼稚園･こども園では、４月の年齢別教育目標（１園）、４月の年齢別指導内容（１園）、４月の年齢別保育のねらい（1 園）、４月の年齢別頑張るポイント（１園）、４月の約束（１園）、園目標（１園）など、６園６通りの表題で、全園において目標・ねらいを掲載していた。

６月については、保育所は、２園で６月の年齢別ねらいが記載されていたが、他の４園では掲載が見られなかった。幼稚園・こども園は、１園を除いて４月同様の表題で掲載が継続されていた。このことから、保育所と幼稚園・こども園での目標・ねらいの扱いに違いがみられ、幼稚園・こども園は４月・６月ともにそれぞれの月の目標・ねらいが記載されているが、保育所は紙面不足からか目標・ねらいの記載を省いている園だよりがあることがわかった。

③行事予定と翌月の予定

行事予定表の様式は、縦型カレンダー様式の１列（５園）、２列（２園）、横型カレンダー様式（５園）となった。1 列カレンダー様式の中には行事日のみを抜き出して表記している園だより（１園）もあった。また、翌月の予定は収集した全ての園だより（12 園）で掲載されていた。

幼稚園は保護者に関わる行事が多々あり、とりあえず時間を明記し、案内の詳細は後日別紙にて発行する趣旨が記載されていた。保育所は、紙面が少ないためか、案内の詳細を後日別紙発行にしていることが読み取れた。中には、紙面を確保している園だよりの中には後方の紙面の「お知らせ」欄に詳細を記載して通信発行回数の軽減や、園だよりの中で情報提供することで保護者が予定を早期に把握できる配慮がなされていると推測できた。また、行事のみを抜き出し行事のない日を削除することで余白を設けて行事ごとに内容や意図を短文で加筆表記している園だより（１園）もあった。このことは、保護者が園の行事（子どもの園生活）を理解したり、子どもが行事を通して登園を楽しみにし

たり、親子で行事を共有できるなど、行事内容の可視化の一助になっていると考えられる。

行事予定表には、行事日に行事名の表記があり、続いて参加対象の年齢や組名が記入されていた。顕著な例としては、身体測定は収集した保育所・幼稚園・こども園（12 園）の４月・６月の全ての園だよりに参加対象の年齢や組名の表記があり明確になっていた。ただし、保育所の園だよりの０歳児から２歳児の健診に関しては、４月・６月ともに記載がある園（１園）、４月・６月ともに記載がない園（２園）、編集ミスとも考えられるが４月は記載有り６月は無しの園（１園）、４月無し６月記載有りの園（２園）があった。

他の行事については明確な表記が乏しく、参加対象の年齢や組名が未記入で不明確な行事予定表があった。全園児の保護者を対象に配布する唯一の情報紙のため、保育所の場合は０～５歳児のどの年齢の子どもを指しているかを明確に表記する必要がある。特に０～２歳児については、行事に参加しているにもかかわらず年齢表記が無く漏れていると考えられる記載があった。言い換えれば、３歳児から５歳児寄りの行事表記に重きが置かれた傾向があると言える。全年齢の保護者を対象に発信していることに留意し、全ての行事に参加対象の年齢や組を明記することが全保護者への丁寧な情報発信になるのではないだろうか。

行事予定の紙面作りでは、いずれの園（12 園）も行事予定表と翌月の予定を１面以内で完結していた。このことは、保護者が壁面（例えば冷蔵庫）に掲示して、いつでも一目で見ることができるように配慮されているのではないかと考えられる。また、総紙面に占める行事予定表・翌月予定表の割合は、保育所、幼稚園、こども園ともに、総発行紙面が３面以上の園では１面の全て（100%）を占有（４園）しており、総発行紙面が２面と少ない園でも、行事予定に２面中の１面全てを使っている園（１園）や、１面中の約 50%を割いている園（５園）があった。全 12 園の平均は 1 面の約 60%となり、多くの紙面を割いていることから、保育所・幼稚園・こども園ともに行事予定表と翌月の予定は、園からの情報発信として最重要視している内容であると言えよう。

④子どもの姿や育ち・保育者の思い

６月の園だよりでは、子どもの魅力的な姿や育ち、保護者に気づいてほしい保育者の思いを伝える一助として、写真を取り入れる方法が見られた。具体的には、A4 １面を使って０～５歳児の日常の保育の中で撮った全年齢・全クラスの写真各 1 枚を掲載して、その時々の姿や育ち、保育者の思いを加筆して発信している園（２園）と、A4 の 30～50%の面積に、全年齢ではないが保育者の思いを伝えたい写真と吹き出しでコメントを掲載している園があった（３園）。前者の園（２園）は、紙面不足から、冒頭文、目標・ねらい、子どもの姿等を省いて連絡事項のみの園だよりであった。また、後者の園の中にも、目標・ねらいを省いていた園があった（２園）。更に、文字サイズを小さくしたり、集約したりして子どもの姿や育ち・保育者の思いを伝える工夫がみられた。

写真掲載の導入は、視覚を通して伝える有効な方法で、保育者も文字化するより写真の方が園だより編集の時間短縮につながる可能性が期待でき、今後はさらに写真掲載が増加していくことが予想される。

⑤お知らせ・お願いなどの連絡事項

お知らせ・お願いなどの連絡事項は、見出しの付け方によって件数が左右されると考えられるが、幼稚園・こども園の４月の総件数が 58 件、１園当たりの平均は 9.7 件、６月の総件数が 36 件、平均６件だった。保育所の４月の総件数は 35 件、平均 5.8 件、６月総件数が 35 件、平均 5.8 件で４月と同件数となった。４月のお知らせ・お願いは、持ち物、提出物、家庭訪問、スポーツ振興会加入など年度初めならではの連絡事項があり、件数増の要因となっていた。これらの連絡事項は省くことができない必要事項で、毎月保護者へ多様な連絡事項が多々あることがわかる。

Ⅳ．調査２（作成者へのインタビュー）

１．調査対象・調査方法

Ａ市３園・Ｂ市２園・Ｃ市１園（いずれも公立）の園だより作成者６名（保育所４名、幼稚園２名）

を対象に、2018 年 12 月に、園だよりについて個別にインタビュー又は書面での回答を求めた。回答者は主任４名･園長２名で､園長のうち１名は職員会で打合せして園全体で園だよりを作成している。倫理的配慮としては、回答者の個人が特定されないよう園名を含めて匿名で扱うことや、調査目的及び結果の公表等について説明し、承諾いただいた方に回答していただいた。

質問内容は、①発行の頻度と用紙サイズ、②掲載内容と工夫点、③課題、④今後載せたいこと、⑤園の思いや子どもの様子を保護者に伝えるために園だより以外に作成しているもの、⑥保護者からの意見、以上６点である。

２．調査結果

①発行の頻度は、月１回で主にＡ４サイズ両面が中心であった。②掲載内容は、月の保育目標や運動遊びについてなど園内研修で取り組んでいることなど“園から発信したいこと”と、疾病に関する情報など“保護者が必要と思われる情報”の２タイプに分けられる。工夫点は、見出し、簡潔で親しみやすい言葉、イメージしやすい文章、イラストや写真の活用、４コマ漫画での表現など、内容への理解度と注目度を高めようとしていることがわかった。一方で、③課題については、内容の過多や曖昧さ、マンネリ化、見直しや改善のための時間の不足が挙げられている。④今後載せたい内容としては、絵本・書籍の紹介、子育てアドバイス、写真やイラスト、幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿についてのエピソード、園での生活や遊びでの成長や学びなどの様々な回答がある。⑤園だより以外に保護者への情報発信として作成しているものとしては、園長だより、ホワイトボードによる掲示、個人向けのおたより、スライドショー、写真を活用した掲示など、どの園も園だより以外で様々な方法を工夫していることがわかった。⑥保護者からの意見については､「良いと言われる」（１園）、「保護者からの意見はない」（３園）、「見てもらえていないのでは？」「読んでいないのでは？」と推測での回答が２園あった。

②掲載内容と工夫点に関する主な回答
掲載内容：「月の保育目標」「園内研修での取り組み」「行事予定」「連絡事項」「親子体操」「流行の疾病」「子どもの育ちを伝えたい」「発達や様子がわかる“ほっこりエピソード”」「子どものつぶやきを掲載して、子どもの声と育ちを共有する」「子育てアドバイス」等
工夫点：「イメージしやすい文章を心がけている」「イラストや写真を活用している」「見出しをつけて注目しやすくしている」「親しみやすい言葉で表現に努めている」「絵が得意な職員が伝えたいことを４コマ漫画にして、読んでもらいやすい工夫をしている」等

③課題に関する主な回答
「伝えたい内容が多すぎて文字数が増えてしまうので、読んでもらえていないように思う」
「時間がないと以前のものを参考にするため、マンネリ化になりがち」「保育の言語化」
「楽しみに読んでもらえるようにしたい」「どこを主にするのか悩みながら作成している」
「いかに興味をもって読んでもらえるか、発信するだけの価値のあるものにするか」
「よりよい園だよりを作成したいが、見直しや改善のための時間が不足している」

３．考察

作成者は、よりよい園だよりの作成を模索し工夫を試みている一方で、課題を感じ、見直しや改善は不十分とも感じている。また、園だよりだけでは伝えきれない幼児の姿や育ちや保育者の思いについて、別の方法でも発信力を高めようとしている。しかし、園側は、「読んでいないのでは？」など読み手の立場である保護者の声を確認できていない状況であることがわかった。保護者は、現状の園だよりから必要な情報を得ることができているのだろうか。

そこで、保護者は園だよりのどの部分に注目しているのか、園の発信内容は伝わっているか、どのような園だよりが求められているかを次の調査で明らかにすることにした。

Ⅴ．調査３（保護者対象の調査）

１．調査概要

Ａ市立Ｆ保育所の全園児 265 名の保護者を対象に、園だよりに関する質問紙調査を 2018 年 12 月に実施した。回収数は 129 名で、48.7%の回収率だった。倫理的配慮としては質問用紙に目的を明記し、調査に協力できる保護者は、園内の通路に設置した箱に回答用紙を無記名で提出してもらうことで承諾とした。内訳の年齢別回答者数は、０歳児６名、１歳児 19 名、２歳児 30 名、３歳児 16 名、４歳児 29 名、５歳児 29 名の計 129 名である。なお、この園の園だよりは毎月 A4 両面１枚で発行されており、主な内容は①冒頭の挨拶文、②子どもの写真・様子、③行事カレンダー、④翌月の行事、⑤お知らせ・お願い、の構成である。

２．結果・考察

(1) 保護者はどの内容を見ているか

掲載内容上記①～⑤についてどの程度見ているかを４件法で尋ねたところ、図１のように「必ず見る」が全てで多く、特に③行事カレンダーが 93.8%と高く、次に②子どもの写真・様子が 93.0%と高かった。次いで④翌月の行事と⑤お知らせ・お願いが 84.5%と高く、②～⑤に対する保護者の関心の高さがうかがえる。①冒頭の挨拶文については51.9%と低く関心が薄かった。以上より、①冒頭の挨拶文以外はよく読まれていることがわかる。

また、①～⑤の中で最初に見る内容を尋ねたところ、図２のように②子どもの写真・様子が 55.0%、③行事カレンダーが 18.6%、⑤お知らせ・お願いが 9.3%、①冒頭の挨拶文が 7.0%、④翌月の行事が 6.2%という順で高かった。保護者の関心は「②子どもの写真・様子」が突出して高いことがわかる。年齢別にみると０～３歳児で特に高く(0･1 歳児 64.0%、２歳児 63.3%、３歳児 81.3%）、４、５歳児では減少し（４歳児 37.9%、５歳児 41.4%）、「③行事カレンダー」が増加している。

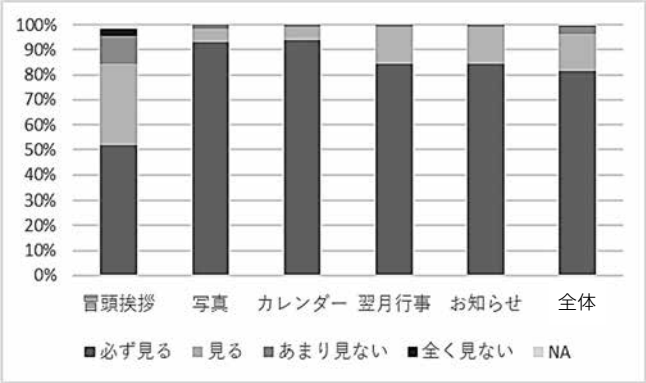

図１　保護者はどの程度見ているか

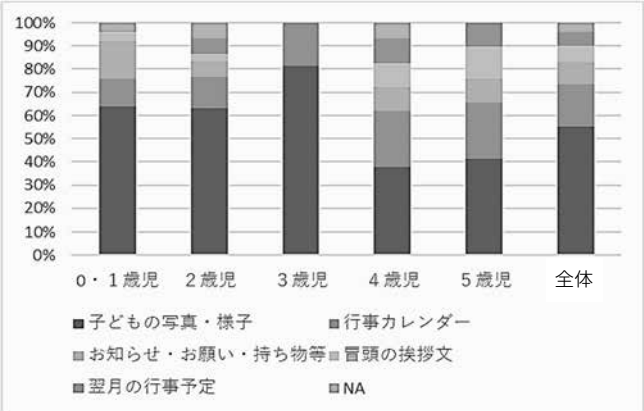

図２　最初に見る内容

(2) 子どもの姿や園の思いは伝わっているか

「子どもの姿や育ちが伝わっているか」「園

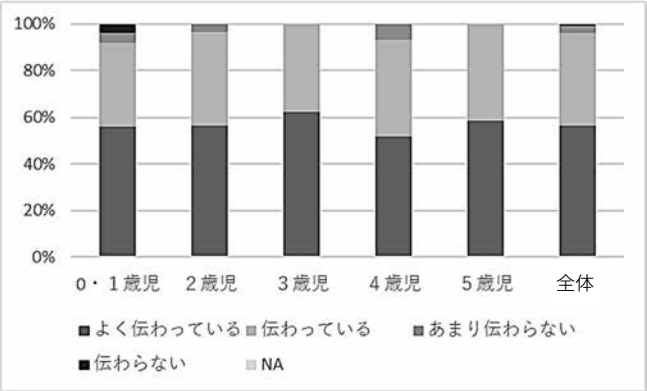

図３　子どもの姿や育ちが伝わっているか

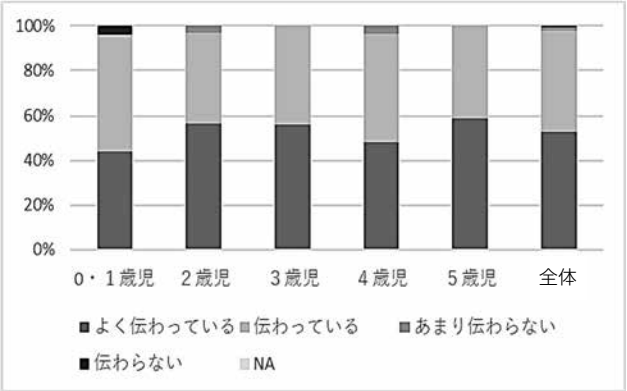

図４　園の思いや考えは伝わっているか

の思いや考えは伝わっているか」を４件法で尋ねたところ、図３、図４のように「よく伝わっている」が全体平均でそれぞれ 56.6%と 52.7%に留まっていた。「あまり伝わらない」「伝わらない」はごく少数だったものの、十分伝わっているとは言い難い状況であることが推測される。（１）で保護者の関心が高かった「②子どもの写真・様子」からは、育ちが伝えきれていないことがわかる。また、調査１（園だよりの収集）の結果のように、園の取り組みや保護者に伝えたい子どもへの願いなどを冒頭の挨拶文に含む園もあることから、園の思いや考えを読んでもらう工夫が必要であると考える。

また、図５より「園だよりは園の理解や子育てに役立っているか」でも、「とても役立っている」が 48.8%にとどまった。保護者が知りたい子育てに役立つ情報が伝えきれていないことが課題であることがわかる。

自由記述では「どんな成長が見られたかなど詳しく知りたい」という意見の他、「親は園での行事の様子をその写真でしか見られないので貴重」「保育中の平常時の様子を子どもの話以外からは知れる事がないので毎回楽しみ」等の意見もあり、日常の保育の具体的な子どもの様子や保育実践内容を伝える工夫が、今後さらに求められていると言える。

(3) 情報発信への希望

新たな掲載希望情報としては、図６のように、健康情報 31.5%、早朝延長保育情報 26.1%、年齢別保育目標 23.4%、食育情報 17.1%の順であった。その他にも自由記述では、感染症・不審者・遊び場等の情報や、離乳食、トイレット・トレーニングの進め方、おすすめ絵本、保育中のエピソード等の希望があった。年齢別では、５歳児で健康情報が高い一方で、４歳児では年齢別保育目標、３歳児では早朝・延長保育情報、２歳児では食育情報が高くなるなど、年齢や発達状況によって掲載を希望する内容に特徴が見られた。保護者が得たい情報を、学年だよりやクラスだよりなどを利用して、きめ細かく提供していく必要があると考えられる。

また、発信希望方法では、図７のように、紙面が 70.5%、掲示が 23.3%、ホームページが 20.2%の順であり、紙面を希望する保護者が多いことがわかった。ネット配信が進む時代ではあるが、多忙な保護者にとっては、多くの情報を視覚的に即

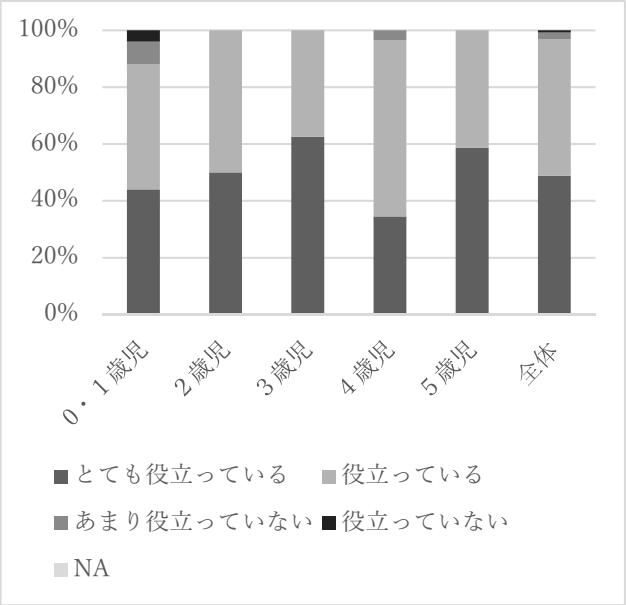

図５　園理解や子育てに役立っているか

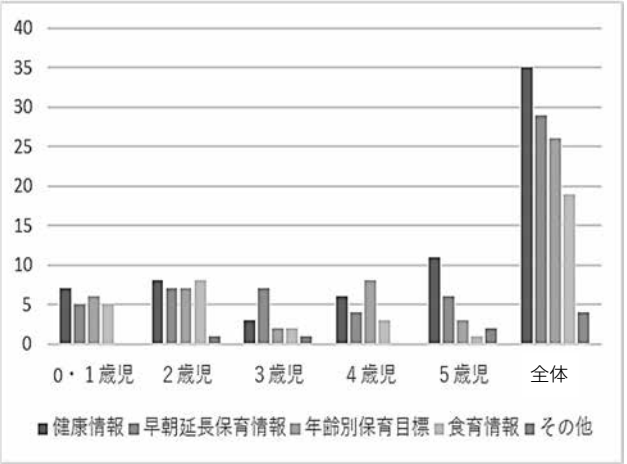

図６　新たに掲載を希望する情報

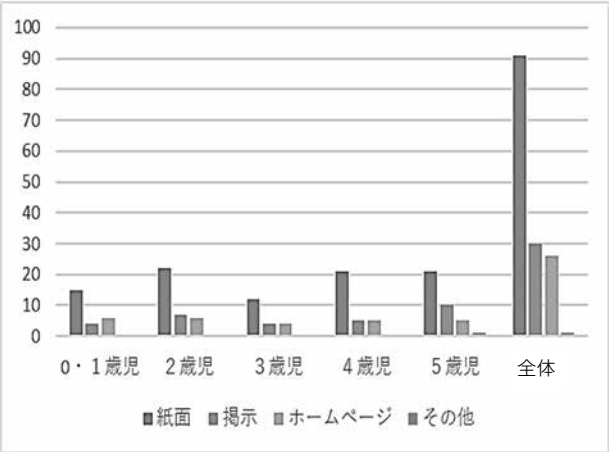

図７　情報発信方法の希望

座に見られる良さが紙面にはあるのではないかと考えられる。一方、自由記述では、「園での写真は紙ベースでなく、データがほしい」「白黒では見にくい」という意見もあり、紙ベースに慣れている現状からの変化を希望しない反面、保護者の興味の高い写真においてはデータ配信への要望もみられた。園だよりに掲載した写真を、例えばホームページ内の保護者のページ等に載せることが可能であれば、その要望にも応えられると考えられる。このように発信方法としては、従来の紙面も活用しながらデータ配信等の他の方法も取り入れることが更なる保護者のニーズに応える方策と言える。

以上のことから、園だよりに求められる内容や発行する目的を明確にする必要があると考える。また、保護者が希望する内容には、園だより以外で載せる内容も含まれるため、他の発信ツールも検討しながら、保護者に伝わるより良い方法を検討していく必要があるだろう。

Ⅵ．総合考察

１．保護者の園だよりへの関心

今回の調査の回答から、保護者は園側が思っている以上に園だよりから、子どもの姿や育ちに関心を寄せていることがわかった。ただし、“園の思いや考え”について、「よく伝わっている」との回答は５割強であり、また“園だよりは園の理解や子育てに役立っているか”について「とても役立っているは半数に至らず、十分に活用されているとは言い難い。また、子どもの写真、行事予定など連絡事項には注目されているが、冒頭部分については時候の挨拶文などがあるためか重要視はされず、あまり読まれていない。情報発信の方法として、ホームページよりも紙面を希望しているという結果も得られた。今回の調査で収集した園だよりにあったように、注目されている子どもの写真を活用することや、冒頭には挨拶文としてではなく伝えたいメッセージから書き込むスタイルにするなどの工夫も、改善方法の一つとして考えられる。

このような結果から、作成者は保護者が園だよりに関心を寄せている前提に立ち、よりよい園だよりを作成することが求められる。手元ですぐに目を通せる紙面での配布は、自分から取り込んでいくことに比べて、発信（配布）されたものを受ける立場になるため、忙しい子育て時期の保護者にとってはむしろ必要な情報を得やすいのではないかと推測する。その点において、園だよりは、保護者にとって手軽な情報源になっているととらえられる。園側は、「保護者にはあまり読まれないだろう」「園だよりを時間のない中で作成するのは負担」という意識ではなく、保護者に注目されている重要な情報発信のツールの１つとして認識し、よりよい園だよりの作成を目指したい。

２．園だより作成者の思いと見直し

園は園だよりを単なる連絡事項の発信だけでなく、保育のねらいや幼児の育ちの過程を保護者に伝えて理解と協力を求め、保護者と子育ての連携を図りたいと願っている。しかし、見直しを図りたいとの課題をもちながら、改善に至っていない現状があることがわかった。園だよりを収集し調査してみると、子どもの育ちや園のねらい、行事予定などおおまかに共通の項目もあるが、レイアウトや文章表現、全体の印象は様々であった。語りかけや問いかけるようなメッセージもあれば、連絡事項として簡潔な文面でわかりやすく書かれたものもある。幼稚園では３歳児から５歳児、保育所とこども園では０歳児から５歳児という対象に年齢幅があり、その発達や育つ過程は違うため、保護者が必要な情報は様々であると考える。それぞれの子どもの育ちや保護者の興味・関心をどのように取り扱っていくかが問われている。園だよりだけで情報を掲載できない場合は、掲示やクラスだより、３歳未満児だよりと３歳以上児だよりなど、園の意図と保護者のニーズに合わせ、発信内容と発信方法のすみ分けも見直す必要があると考える。

３．今後の課題

園と保護者は、共に幼児の育ちを理解し合い成長を喜び合うことで、より信頼関係を深め連携が進むと考える。園と保護者との関係が向上することで、さらに幼児の育ちにつながることが期待される。保護者に伝わるための情報発信には、保育を言語化する力量が求められる。そのために保育者は、幼児理解をベースにして自分の保育と向き合い振り返ることが必要である。何をどのように伝えるかに

ついて職員全体で考え合い、園だよりを見直し作成にかかわることは、保育の基本と向き合うことになり、園全体の実践力量アップにつながるのではないだろうか。

今後は、注目されやすい写真などを活用しながら、幼児の遊びの過程が学びであることをよりわかりやすく伝える工夫をする中で、保育の可視化と言語化、保育者の資質向上を目指すことが期待される。また開かれた教育課程や保育の計画を行うための１つの方法として、園だよりの価値を見出し、家庭への発信だけでなく、地域や小学校に向けての発信力も高めたい。保育者自身が子どもの遊びが育ちであることを言語化することは、自分の保育や仕事に価値と意味を見出し、自信と意欲を高めることでもあると考える。作成にかかる事務時間の確保と作成技量向上に努め、よりよい情報発信を目指したい。

引用文献

(1) 大豆生田啓友「つたえる＆つたわる園だより・クラスだより」赤ちゃんとママ社　2006
(2) 大豆生田啓友「保育が見えるおたよりづくりガイドよりよい情報発信のために」赤ちゃんとママ社　2013

参考文献

瀬川五水「園だより・クラスだより 86」チャイルド本社　1990